



# 友われら 71

甲府市立北中学校  
学校だより No. 6  
2018年 9月20日  
文責 数野 保秋

## -全国学力・学習状況調査の結果から-

### ～課題の改善に取り組もう～

本年度の全国学力・学習状況調査は、全国の中学校3年生を対象に4月17日(火)に実施されました。

この調査は、「教科に関する調査(国語・数学・理科)」と「生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査」の2種類からなっており、国語・数学の「教科に関する調査」は、「知識」に関する問題(A問題)と「活用」に関する問題(B問題)に分かれています。

そして、この調査結果を基に、本校生徒の学力や学習状況を分析・把握し、各教科における成果や課題、生活状況の実態等を明らかにすることで、今後の指導の改善に役立てることが目的です。

本校では、7月末に文部科学省より結果が送付されてきて以来、各教科担当を中心に分析を行ってきましたが、このたび分析結果がまとまりましたので、その概要をお知らせします。

今後、3年生には個人票を返却し、自分のつまずきを知り、その改善に取り組むように指導します。また、学校としても、すでに取り組んでいる教科もありますが、分析で明らかになった課題を確認する中で、3年生はもとより全学年で授業や指導のあり方を見直して、具体的な取り組みを行っていきます。

### 学力調査の分析結果の概要

<参考> 県・国の平均正答率

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
山梨県	76	62	66	48	67
全国	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1

#### 1. 本校の状況

国語A・B、数学A・B及び理科のすべての分野において、県及び全国の平均と比較して±5%以内であり、全国と同等

の結果でした。ただし、個々の分野や問題については、学校全体として課題があります。

また、生徒一人一人の課題もそれぞれあるため、今後も指導が必要であると考えています。

#### 2. 各教科の結果から

##### 【国語】

##### 全体的な傾向

<A>学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式において有意差はなく全国平均とほぼ同程度である。「話すこと・聞くこと」「書くこと」は全国平均をやや上回っていて、「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は、全国平均をやや下回っている。

<B>学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式において全国平均とほぼ同程度。「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」「記述式」では、全国平均をやや上回っている。

##### 本校の優れている点

<A>全国平均と比べて正答率の高かったのは、「行書の基礎的な書き方を理解して書くことができるかどうか」の問題。点や画が連続したり省略されたりする場合があること、筆順が変わる場合があることなどの行書の特徴を理解していた。また、「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができるかどうか」をみる問題も正答率が高かった。

<B>「登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てることができるかどうか」をみる問題の正答率が高かった。授業の中で、積極的に発言する生徒がたくさんいることがより深い学びになり、この結果につながったと思われる。また、記述式問題については、すべての問題で無解答率が全国平均よりも低かった。授業の終わりに、学習したことを自分の言葉でまとめる(「学びの記録」)ことを習慣化してきた成果が表れたのではないかと考えている。

##### 本校の課題



<A>「目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くことができるかどうか」をみる問題は、全国平均でも2割強の正答率だったが、本校はさらに低い正答率だった。具体的には、「心を打たれる」の慣用句を使った一文を書く問題だったが、心を打たれたのは誰なのかについて、主語が明確に書けないのが目立った。相手に伝わりやすい文になるように、「主・述の関係」を意識して書かせるようにしていきたい。

<B>「文章の構成や展開について自分の考えをもつことができるかどうか」をみる問題では、全国平均でも1割強の正答率だったが、本校でも同様な正答率であった。文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもつこと（自分の考えの形成）に課題が残る。書かれている内容を「読み取る力」がつくよう授業を工夫していきたい。

#### **本校の改善点**

○「読むこと」では、文章中において「何が書かれているのか」、「何が問われているのか」を落ち着いて読み取らせていきたい。そして、どのように答えたらよいか、問題の条件を満たす書き方についても理解を深めていく活動を取り入れていく必要がある。漢字の読み書きは、国語の基礎基本。毎日の積み重ねが大切であることを強く意識し、習慣にさせていきたい。

### **【数学】**

#### **全体的な傾向**

<A>ほぼ全ての領域、評価の観点、問題形式において、県及び全国平均よりやや低い傾向にあるが、概ね同程度といえる。

<B>ほとんどの領域、評価の観点、問題形式において、県及び全国平均を上回っている。領域別において「資料の活用」のみわずかに下回っている。

#### **本校の優れている点**

<A>一次関数、確率についての正答率が高い傾向にある。特に一次関数の意味を理解している問題、 $x$ の値の増加に伴う $y$ の増加量を求める問題の正答率には、目を見はるものがある。苦手意識を持ちやすい単元であるが、定義や定理にあてはまる事項を、生徒自身が熱心に理解するよう努力した様子が見受けられる。

<B>選択式だけではなく記述式についても、県や国と比較して高い正答率を示している。A同様に確率を求める問題、事象が成り立つ理由を構想を立てて説明する問題、グラフから必要な情報を読み取り数学的に解釈する問題が、非常によくできている。授業の中で自分の考えを積極的に説明する生徒がたくさんいることで、仲間の意見に寄り添い、真摯に受け止め、考察する姿勢が、本質的な理解につながったものと考えられる。

#### **本校の課題**

<A>県や国と比較すると、正負の数の意味や指数を含む計算技能の定着が不十分な傾向がある。場合によっては、分数や小数、割合の概念など小学校の学習から復習する必要がある。

<B>本校の正答率が高い問題でも、無解答率が高い傾向にあることが心配である。

#### **質問紙調査より**

○「数学の勉強は大切」「授業の内容はよく分かる」などの項目は、肯定的な回答がかなり高く良好な結果を示している。一方「諦めずにいろいろな方法を考える」「将来社会に出たときに役に立つと思う」と考える生徒の割合が低い傾向にあり、授業の進め方や支援の仕方について改善の必要を感じる。

#### **本校の改善点**

○本校の生徒は、「まったくわからない」と投げ出す生徒は少なく、苦勞して数学を解くことに努力してきた成果が少しずつ現れてきている。断片的な理解にならないように、幅広く考えさせ、結びつきに気づかせるような指導を心がけていきたい。

### **【理科】**

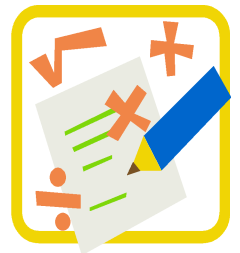
#### **全体的な傾向**

○学習指導要領の分野等の平均正答率の状況を見ると、全国・県・本校ともに、ほぼ同じ正答率を示している。問題の難易度にもよるが、地学的領域のポイントが低くなっている。これは地学に関する自然要因をもとに現象を考察する、科学的な思考を要求する問いに対する正答率が、著しく低かったことが影響していると考えられる。

○主として「知識」に関する問題については、全国平均・県平均を上回っており、主として「活用」に関する問いについては全国平均を若干上回り、県平均に対しては若干下回っている。両方の領域に関して、全国平均を上回っているが、知識を活用して科学的に思考する場面を、増やしていくことが課題であると考えられる。

#### **本校の優れている点**

○物理・化学・生物・地学の4領域に関して、全国平均との大きな差はないが、理科の学習において、数学的な要素が入るため学力をつけるのが難しいといわれている物理領域の正答率が非常に高く、なお



かつ全国平均を上回っていることは高く評価できる。問題形式別の正答率については、選択式および記述式については、全国平均と大きな差異はないが、短答式については大きく上回っており、知識や理解の正確さがうかがえる。

### 本校の課題と改善点

○最も正答率の低かった問題は「ガスバーナーの操作方法」に関するもので、難易度としては低い観察・実験の技能に関するものであった。この要因としては、実際の実験にあたり、傍観している生徒が多いことが推察される。小グループでの実験実施を心がけているものの、今後、より多くの生徒が体験的な学習に参加できるように配慮する必要がある。次いで正答率の低かった2つの問題についても実験・観察の条件について問うものである。逆に知識・理解の力を示す短答式の解答については全国平均を大きく上回っている。知識理解の正答率が高いことを生かしていくためにも、体験学習を中心とした課題探求型の学習スタイルを取り入れることによって、獲得した知識・理解を実験や考察の場面に「活用」する力を伸ばしていきたい。

## 学習状況調査(質問紙調査)の分析結果の概要

### 1. 本校の状況

今回の調査では、多くの項目で肯定的な回答が高い傾向にあり、質問項目の半分以上が国の平均を上回っていました。本校生徒のよさを改めて確認できました。これからも、ますます伸ばしていくことができるように支援していきたいと思えます。また、課題については普段の学習への取り組みが中心です。もう一度自分の取り組みを見直していく必要があります。

#### □肯定的回答が非常に高い(90%以上)質問項目

- 学校の規則を守っている。
- いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。
- 人の役に立つ人間になりたい。
- 朝食を毎日食べている。
- 毎日、同じくらいの時刻に起きている。
- テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る。



#### □【生活習慣・学習習慣】で全国平均を上回る(5pt以上)質問項目

- 朝食を毎日食べている。
- 1・2年生のときに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があった。
- 今住んでいる地域の行事に参加している。
- テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る。

#### □【教科学習】で全国平均を上回る(5pt以上)質問項目

- 数学の勉強は大切だと思う。
- 数学の授業の内容はよく分かる。
- 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- 理科の勉強は好き。
- 理科の勉強大切だと思う。
- 理科の授業の内容はよく分かる。
- 自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある。
- 理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察している。

※本年度は、国語に関する質問はありませんでした。

#### ■肯定的回答が低い(50%以下)質問項目

- ▼ 家で、自分で計画を立てて勉強している。
- ▼ 家で、学校の授業の予習・復習をしている。
- ▼ 家で、平日2時間以上勉強している。
- ▼ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。

#### ■【生活習慣・学習習慣】で全国平均を下回る(5pt以上)質問項目

- ▼ 家で学校の宿題をしている。
- ▼ 学校の授業の予習・復習をしている。
- ▼ 家で、平日2時間以上勉強している。
- ▼ 家で、平日読書をする。
- ▼ 地域の大人に勉強やスポーツを教してもらったり、一緒に遊んだりすることがある。

### ■【教科学習】で全国平均を下回る（5pt以上）質問項目

- ▼ 数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。
- ▼ 数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える。
- ▼ 理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察している。
- ▼ 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている。
- ▼ 1・2年のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う。
- ▼ 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。

※本年度は、国語に関する質問はありませんでした。

## 2. 本校の主な課題

質問紙調査から伺われる課題については、次の2点が挙げられます。

### （1）家庭学習への取り組みがまだ不十分。

家庭での学習時間や予習・復習の取り組みについて、まだまだ大きな課題があります。具体的にどのような学習をどのくらい行うことが必要なのか、今後も指導を続けていきます。また、家庭学習については、時間だけが大切なのではなく、集中して取り組むことでさらに効果が上がるはずです。また、読書の機会を設けることも大切です。

### （2）教科でもう一歩突っ込んで学習していく気持ちを。

教科の授業は決して嫌いではなく、その大切さもよく理解しています。しかし、指導されたことをただ行うのではなく、もっと深く考えたり、自分の学習内容を振り返ったりすることも重要です。授業中にもう一歩積極的に思考していこうとする姿勢が課題です。



## 学校としての今後の取り組み

- ◇ 今回の調査について、現在の中学3年生が2年生のときに実施した山梨県学力把握調査（H29.4月：国語・数学・英語）と比較した結果、2年生のときは県平均を下回っていた教科が、今回はほぼ全国・県と同程度になりました。特に、数学は大幅に向上し、この1年間で着実に力が伸びてきていることが実感できました。したがって、今までの各教科の取り組みを生かしながら、各学年ともさらなる改善を目指します。具体的には次の①～⑥の項目に取り組んでいきます。ご家庭でのご理解・ご協力をお願いします。

- ① 各教科の授業の中で、今回の調査で課題の見られた領域や問題について、復習する機会を設けていきます。
- ② 家庭学習が重要です。まだまだ学習時間が不足しています。予習・復習を基本に、自主的な学習の取り組みを充実させるとともに、授業との関連を意識した課題を継続していきます。
- ③ 基礎的・基本的な学習内容（国語の漢字や数学の計算、英単語など）について、様々な時間を活用し、小テストやドリル・学習プリントなどで繰り返し学習を行い、基礎・基本の定着を図ります。
- ④ 授業の中で、学習内容をもう一歩進めて考える機会を設定します。まず個人でじっくりと考えるとともに、全員が参加して意見交換を行ったり、互いに学び合ったりすることで、思考力・判断力・表現力の一層の向上を目指します。
- ⑤ 授業のはじめには、何を学習するのか、何が分かればよいのかという「見通し」をしっかりと持たせ、授業の終わりには、何を学習したのか、何が分かったのかという「振り返り」を行うようにします。
- ⑥ 第4回定期テスト（11月27・28日）に向けて、「NO TV・ゲーム・スマホ DAY」を行い、家庭と一緒に集中して学習に取り組んでいきます。

【「NO TV・ゲーム・スマホ DAY」とは、学習強化週間に北中生がテスト勉強に取り組んでいるとき、家族と一緒に「テレビ」を消したり、「ゲーム」をしないようにしたり、「スマホ」を使うのをやめたりして、集中して学習に取り組める環境を作ろうというものです。1日だけでも、1時間だけでもよいので、保護者の方も兄弟姉妹も一緒に取り組んでみてください。】

※ 明日（21日）、明後日（22日）は**北陽祭**です。多くの保護者の方々のご来場をお待ちしております。264名の躍動する姿を是非ご覧ください！！